

## 都道府県別エネルギー消費統計の推計方法変更等に伴う 温室効果ガス排出量算定値の見直しについて

### 1 温室効果ガス算定値を見直す理由

これまで、第2次函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（以下、「計画」という。）における温室効果ガス排出量の算定にあたり、経済産業省資源エネルギー庁が公表する「都道府県別エネルギー消費統計」（以下、「エネルギー消費統計」という。）を利用していましたが、令和6年（2024年）12月27日付けでエネルギー消費統計の推計方法が変更され、1990年度まで遡ってこれまでの公表値がすべて改定された。

このことから、計画を適切に進行管理するため、本市において改定前の都道府県別エネルギー消費統計の数値を基に算定した温室効果ガス排出量（以下、「旧算定値」という。）についても、改定後のエネルギー消費統計に基づいて再度算定を行い、新たな数値（以下、「新算定値」という。）に改定した。

#### 【推計方法変更の主なポイント】

- ▶ 家庭の電気エネルギー消費における補正方法の精緻化

※詳細は下記 URL へ

[https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/energy\\_consumption/ec002/review.html](https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/energy_consumption/ec002/review.html)

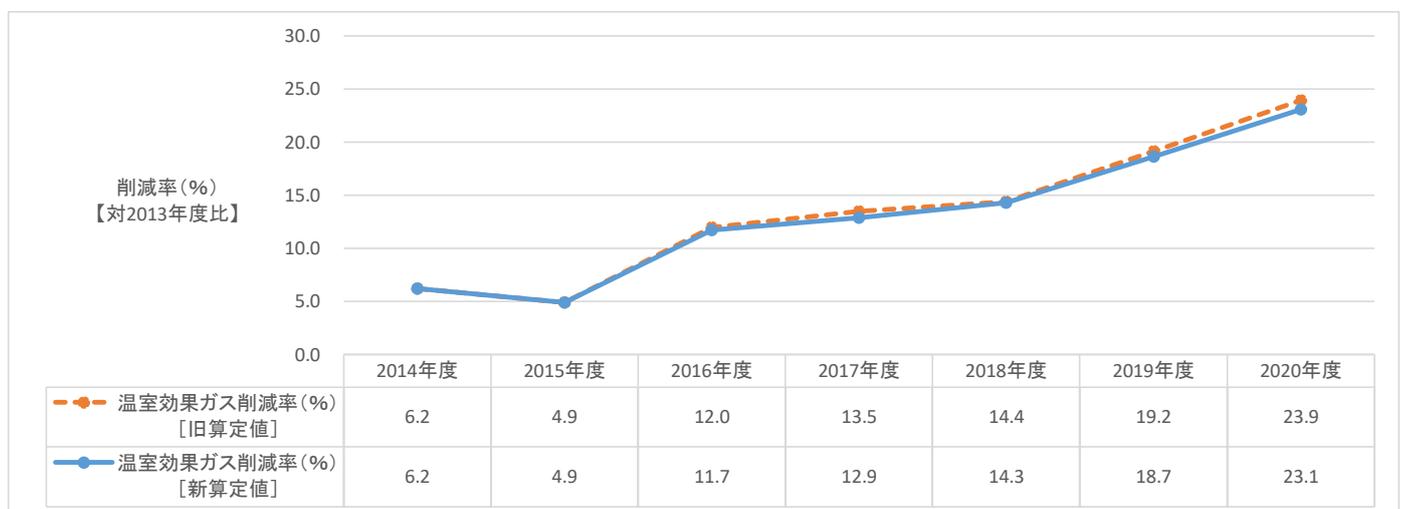
### 2 温室効果ガス排出量の新旧算定値の比較

#### （1）新算定値と旧算定値の相違点

新旧算定値の相違点は、温室効果ガス排出量の区分のうち、家庭部門の二酸化炭素排出量および六フッ化硫黄で、その他の温室効果ガス排出量については相違ない。

#### （2）温室効果ガス削減率の新旧比較

2016年度以降は新算定値の方が低くなる結果となった。



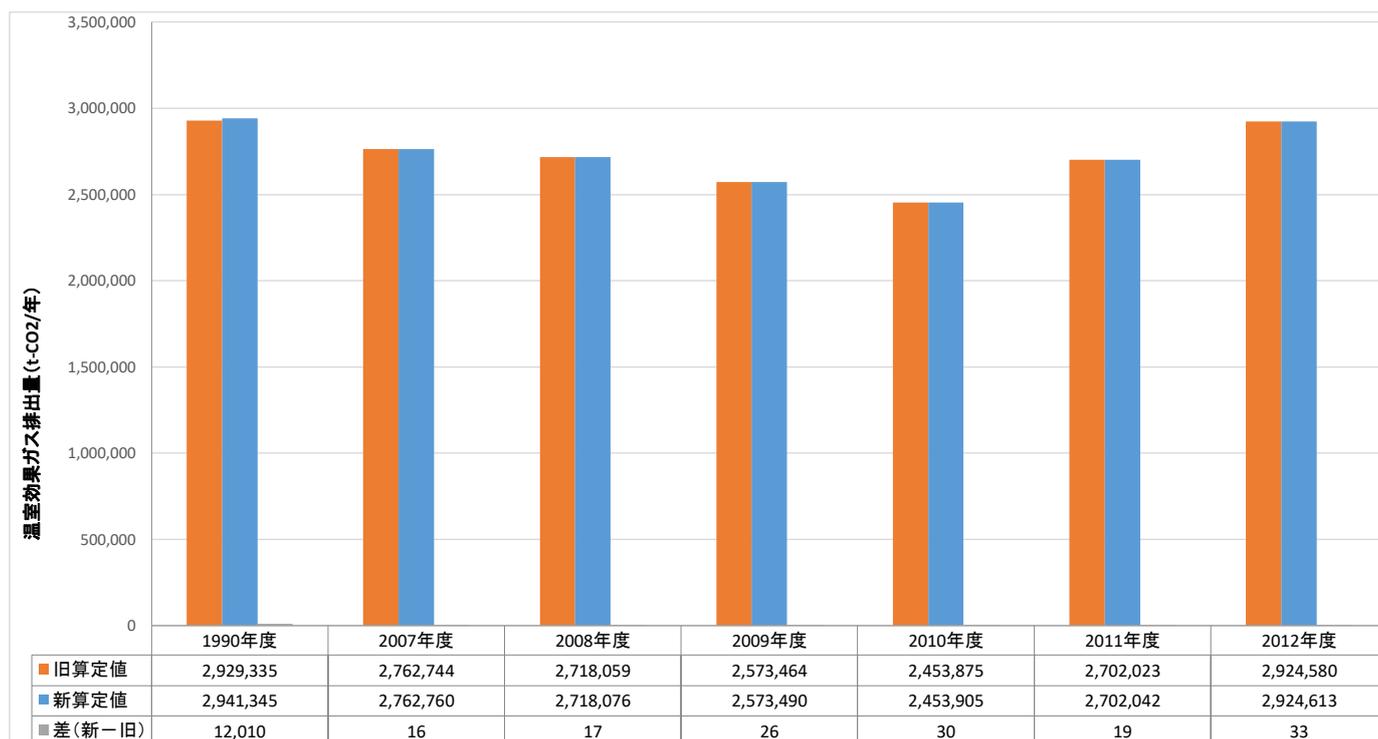
※吸収源対策含む

図1 温室効果ガス削減率の新旧比較

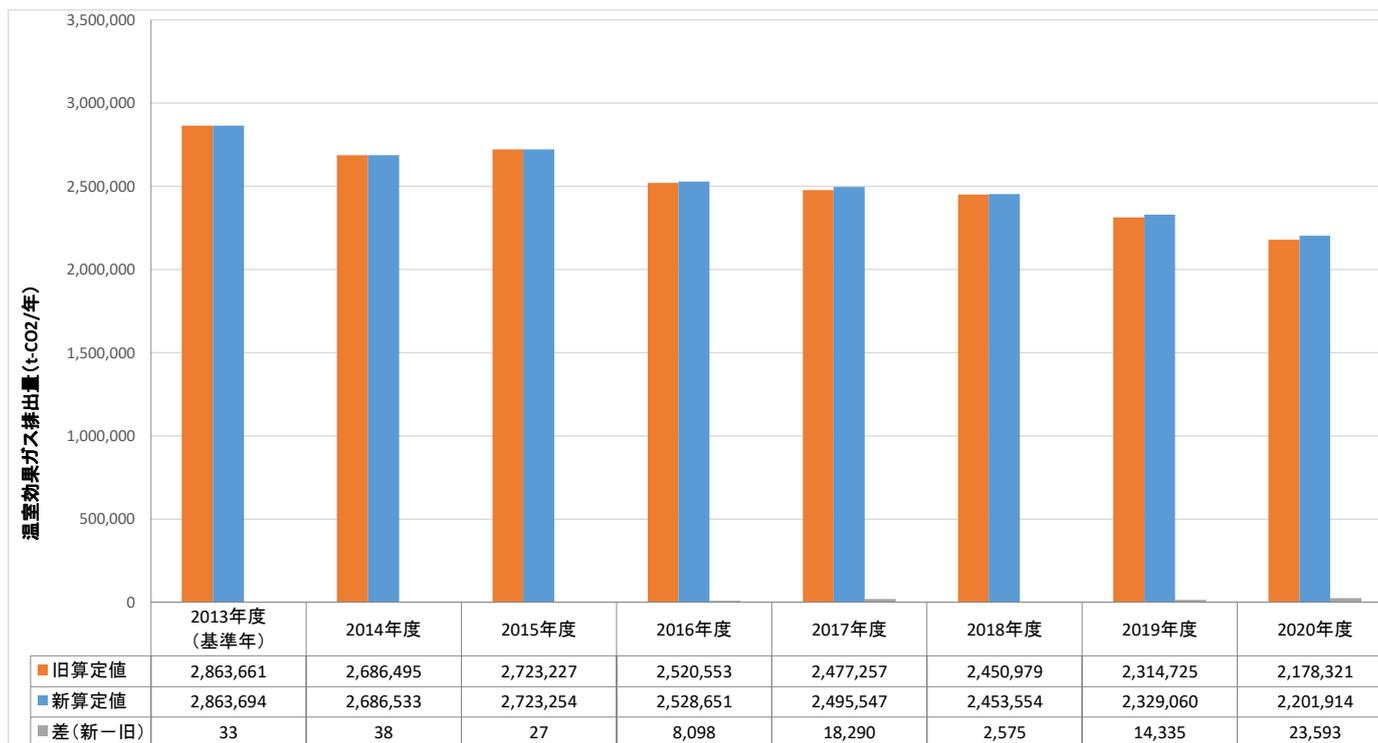
### (3) 温室効果ガス排出量算定値の新旧比較

全ての年度で、旧算定値よりも新算定値が高くなる結果となった。

【1990, 2007～2012 年度】



【2013～2020 年度】



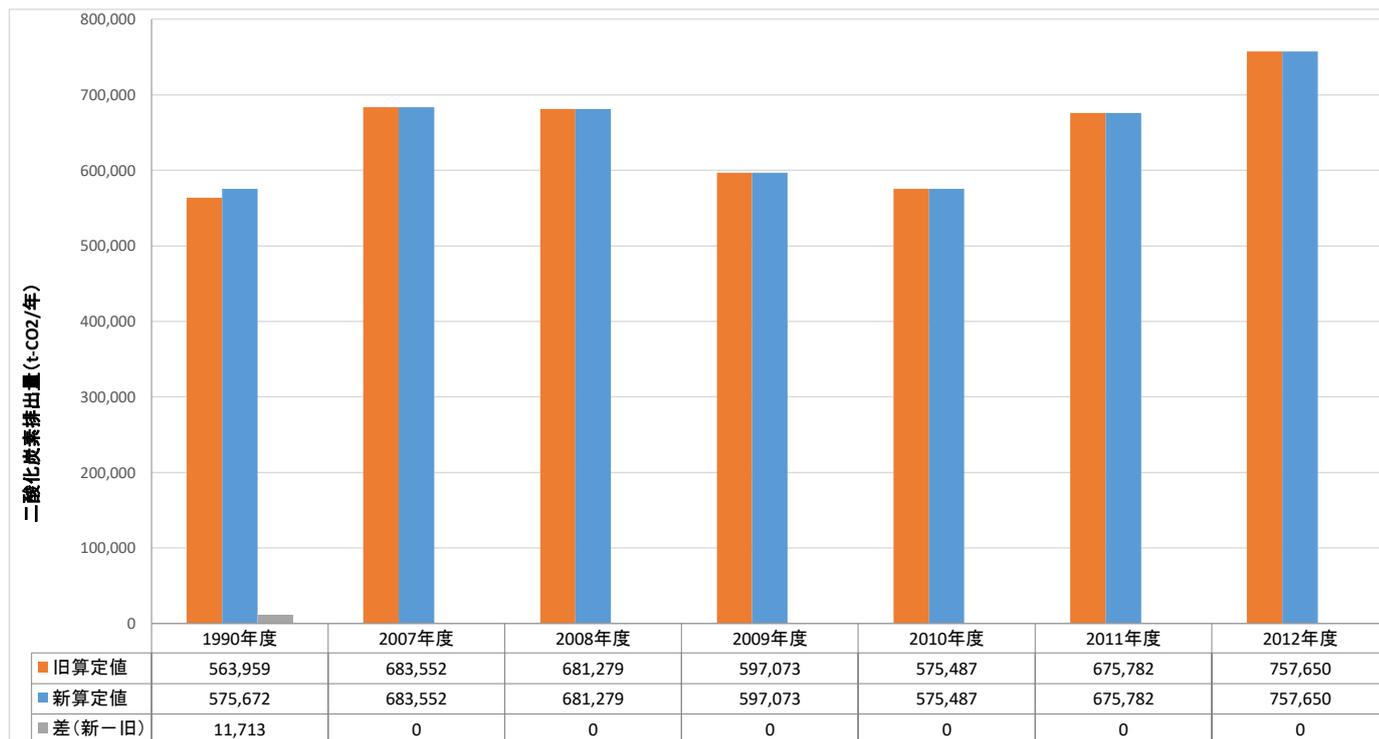
※吸収源対策含む

図2 温室効果ガス排出量の新旧算定値比較

#### (4) 家庭部門における二酸化炭素排出量算定値の新旧比較

2016年度以降は新算定値の方が高くなる結果となった。

【1990, 2007～2012年度】



【2013～2020年度】

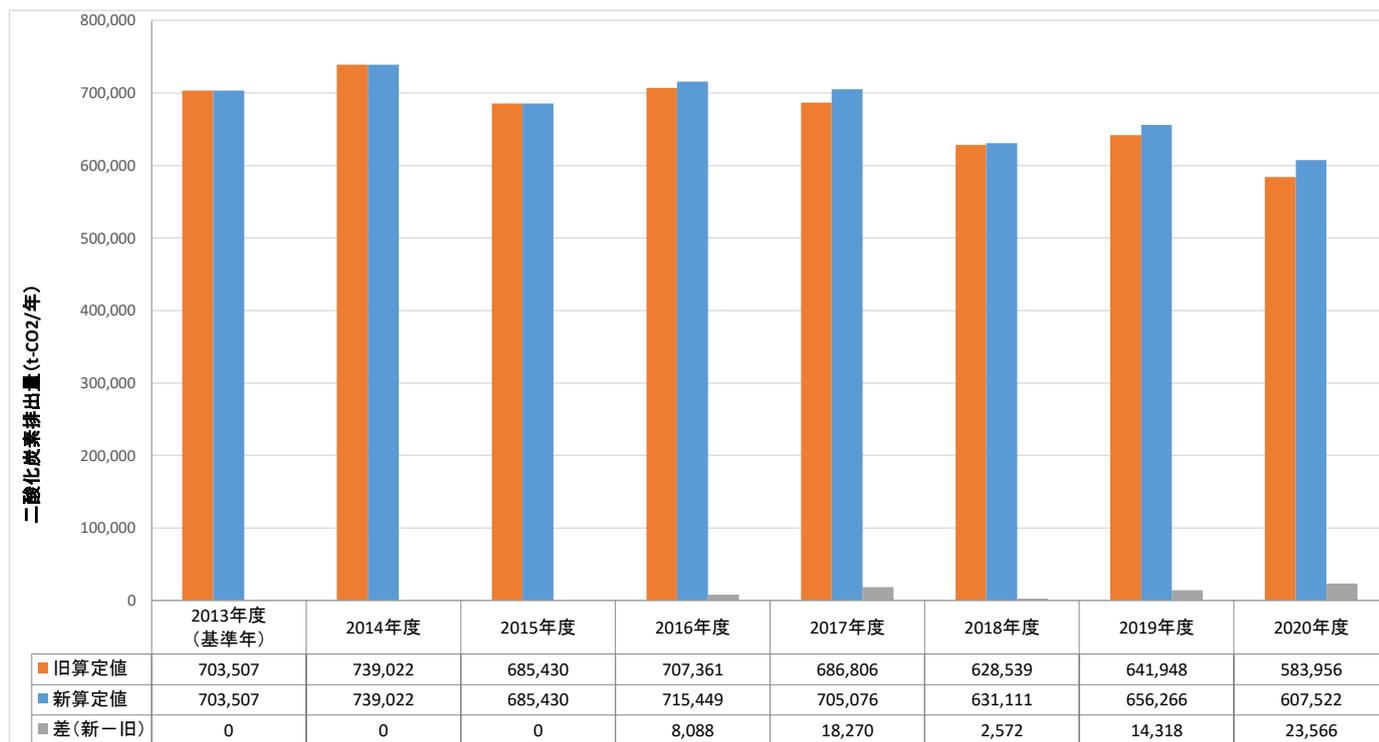
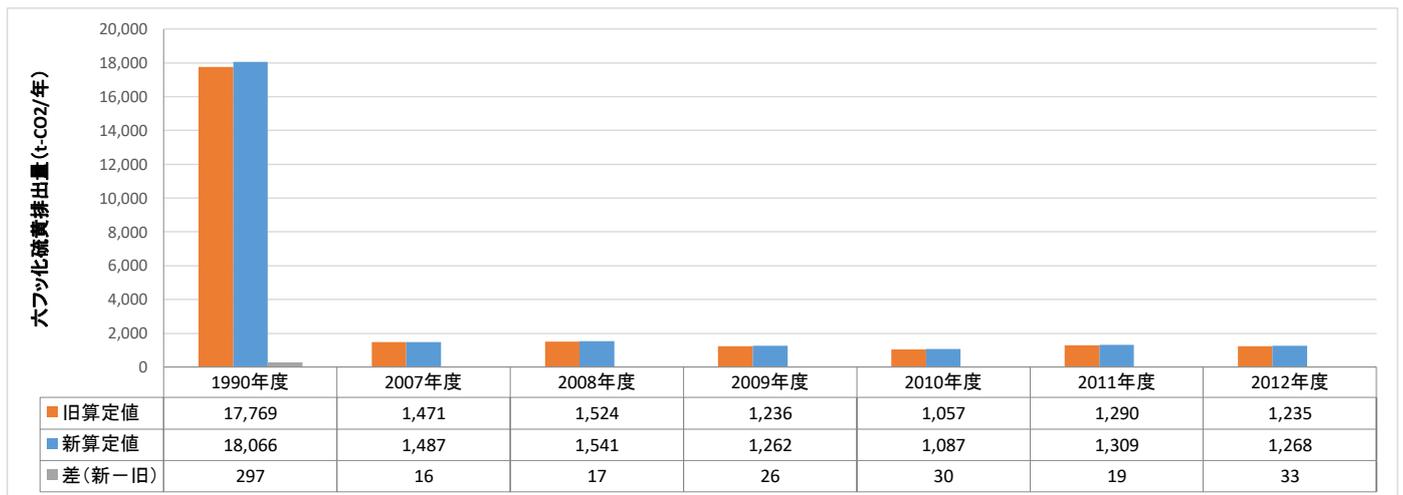


図3 家庭部門における二酸化炭素排出量の新旧算定値比較

### (5) 六フッ化硫黄排出量算定値の新旧比較

全ての年度で、旧算定値よりも新算定値が高くなる結果となった。

【1990, 2007～2012 年度】



【2013～2020 年度】

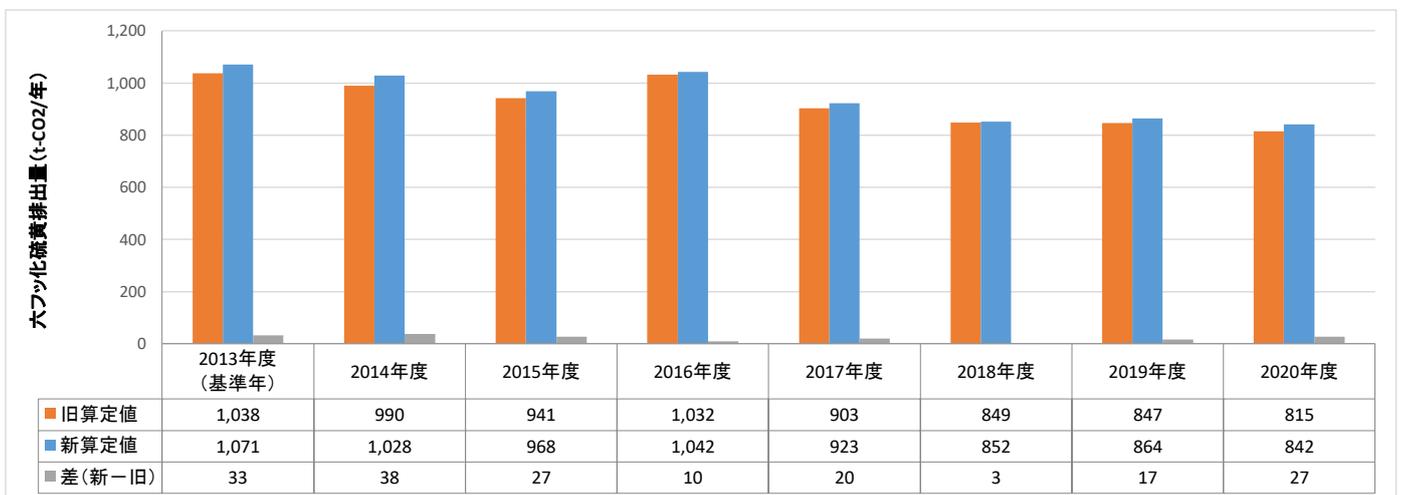


図4 六フッ化硫黄の新旧算定値比較